

## 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 52 回部会）会議録

日 時：令和 6 年 11 月 14 日（木）午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分  
場 所：東淀川区役所出張所 3 階多目的室

### 【議事】

- 1 開会
- 2 部会長挨拶
- 3 議題
  - ・ (1) 新大阪駅エリア・淡路駅エリアのまちづくりについて
  - ・ (2) 高架下活用事例について
  - ・ (3) 地域での活動報告及び意見交換
  - ・ (4) その他
- 4 閉会

### ≪配付資料≫

- ・ 議事次第
- ・ 第 51 回「まちづくり通信」
- ・ 【資料 1】新大阪駅エリア・淡路駅エリアのまちづくり関連資料
- ・ 【資料 2】高架下活用事例関連資料
- ・ 【資料 3】地域での活動報告関連資料

## 1. 開会

---

## 2. 部会長あいさつ

---

### （部会長）

- ・ 下新庄地域では（各地域でのアクションプランの作成に向けた）ワークショップが開催された。
- ・ また、新大阪駅から淡路駅にかけて人の流れを生み出していこうというのが、今回の計画だが、新大阪、淡路だけでなく、それぞれの地域にも影響は広がっていくと思う。“別の地域に意見を出してもいいのかしら”と思わずに、全体として検討していきたい。ぜひ積極的なご議論をいただきたい。

## 3. 議題

---

### （1）新大阪駅エリア・淡路駅エリアのまちづくりについて

#### （事務局）

- ・ 前回の部会で説明があった「淡路駅エリア計画の骨格」について、現在、区役所が個別に地域を順番に回ってご説明をしている。
- ・ 淡路駅エリアのまちづくりについて皆さんから意見をいただく前に、大阪市計画調整局から説明する。

#### （計画調整局）

- ・ 資料 1 の 1 ページに記載しているとおり、『地域の中核拠点』としての淡路駅エリアについて、地域の目線からの意見を求めている。「まちづくり構想部会」の皆さんからもこの観点から意見を重点的にお聞きしていきたいと考えている。『新大阪エリアのサブ拠点』としての淡路駅エリアについては広域的な視点からの意見を求めている、主に「新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会」等で意見を聴取していく予定である。
- ・ 「地域」には、区全体という意味と、浄水場に隣接するところといった 2 つの意味があり、その 2 つの意

味において、意見をいただきたい。子育て、暮らしやすさ、誰にもやさしい、多様性、交流が生まれるといったキーワードにて、これまで議論されているなかで、浄水場開発用地をどのように活用していくか、開発に期待することなどをご意見いただければ。

- ・資料の2ページに、エリア計画には段階があることについて記載している。先月、新聞に記事が掲載されたが、12haの開発用地が新たに生まれるということはまだまだ世に知られていない。ポテンシャルのある開発用地があることを伝え、関心を集めていくことが第一として、「淡路駅エリア計画」Ver1.0の検討・策定を進めていく。どのような機能が入ってくるのかなど具体化してくるのは、もう少し先のエリア計画の更新時になる。今年度策定する「淡路駅エリア計画」Ver1.0は、計画の最終段階ではなくて、第一段階のものになる。

## **(質疑応答)**

### **(部会員)**

- ・まず、読んだときに、これは地域住民とよそから人を集めてくることのバランスをいかにとっていくかということが大切だと思った。
- ・私たちの「まちづくり構想」のなかに、「ふだん暮らしの」というコンセプトがある。例えば、淡路商店街のガラガラ抽選会が開催されていたとして、地域住民は抽選券を持っているので参加できるが、観光客や旅行者は抽選券が無く参加するのは難しい。よそからふらっと来ても、地域の行事や活動に参加できるような仕掛けをつくるのが重要だと思う。
- ・最近の外国人観光客は、英語表記のメニューを出されると冷める、と聞く。(私の実感として)おそらく観光の次に来るのは、地域住民にとっての日常を同じように経験してみたい、ということになるのではないかな。英語が喋れない地元のおばちゃん達となんとかコミュニケーションをとって、「ふだん暮らし」を経験してみたい。淡路エリアの面白さはそのあたりにあるのではないかなと思う。私たちが今まで続けてきたこと、地域の行事やイベントが、一周回ってよそから見ると面白い、見かたによっては面白いコンテンツになるのではないかと考えている。

### **(部会長)**

- ・前回の部会での久先生のお話にもあったとおり、神戸市のように、新大阪から区役所あたりまで、都市景観やデザインに関するガイドラインがあればいいのではないかな、ここで作られへんかなあと思っている。ポプラ並木やイチョウ並木、イルミネーションといった個別具体的なものか、抽象的なものか分からないが。例えば、柴島の桜の通り抜けはこのあたりの皆さんは結構行くと思う。啓発地域の汽車公園とか。新幹線の車両を置いたら面白いのでは、という意見も以前出ていた。
- ・先日テレビで見たが、梅田駅の動く歩道は、阪急梅田駅が昔の位置から茶屋町に移動するときに設置されたのがきっかけだそう。JR淡路駅から阪急淡路駅の間も、動く歩道や屋根でつなぐとか。

### **(部会員)**

- ・ハード面だけでなく、ソフト面のアプローチも重要だと思う。個人的には、ロールプレイングゲームのクエスト(注:ゲームにおけるクリアすべき課題のこと。プレイヤーがゲームストーリー上で冒険を進める中、達成していくべき課題や目標のこと。例えば、猫を見つけて下さいなど。クリアするとアイテムやお

金といった報酬がもらえる)のように、クリアしたくなる仕組みが合うと思っている。啓発の汽車公園を見つけて写真を撮ってくると報酬がもらえる、といったように。

- ・先日、阪急電車の謎解きイベントがあった。
- ・淡路商店街でもやっていた。
- ・茶色い紙を持って集まっている人を何人も見かけた。
- ・反対意見もあったが、そのあたりをうまく巻き込んでいくのが大切だ。
- ・この地域のローカルな雰囲気が、よそとはちょっと違うヘンなまちに写ると思う。我々の日常は観光客・旅行者などよそから見れば非日常になる。

#### **(部会員)**

- ・(地域の名物おばちゃんとう)「オバちゃんビンゴ」とかね。
- ・12ヘクタールの土地の中の道路はどうするのが、気になる。

#### **(計画調整局)**

- ・12ヘクタールをひとかたまりで宅地とすると、あまり使い勝手が良くないので、道路でいくつか分割することになる。開発の前提としては、道路や広場などの都市基盤、公共的なものも配置しながら、宅地を作っていく。その時に、4車線道路のように車がいっぱい来るような道路を作っていくよりも、歩行者にとって親しみやすい空間を作っていくことを意識したいと考えている。

#### **(部会員)**

- ・車が増えて渋滞するのも困るが、やっぱり歩いて行きたくなるような(まちが望ましい)。

#### **(計画調整局)**

- ・皆さんのご意見を、全国各地どこにでもあるようなものではなく、このあたりにもともとある地域ならではのコンテンツを軸にして、リニア開通後の新大阪や開発用地に訪れる人を、どのように周辺エリアにしみ出していくか、回遊させていくか、どうソフトの取組につなげていくかといった観点として聞いていた。
- ・資料2のA3資料の右下、「人と人をつなぎエリアの活性化を図る取組み(ソフト施策)」の「これまで地域で進められてきた取組みを踏まえながら」の部分に、ご意見のもともとある地域の魅力を来訪者に知ってもらい取組みなどを加えていくといいかと思う。
- ・開発用地では、民間事業者等の新しいプレイヤーが、既存の活動をされているところと、うまく連携していく仕組みで、既存のまちにも新たな人の流れを生むといったことが期待される。

#### **(部会員)**

- ・先日佐渡島に旅行してきたが、旅先でその地域の盆踊りが開催されていても、旅行者は知り得ない。でも、知り得るツールがあれば、ぜひ参加してみたい。ただ、そのような仕掛けは難しく、でもそこまでやるのは非常に大事だと思う。地域活動をそのまま継続してというだけならほんとにそのまま、いつまでたっても(来訪者と)交わらない。交わるためには、きちんとした工夫がいる。謎解きイベントとか。個人的には「冒険者ギルド」を作ればと良いと思っている、商店街で一日綿あめ屋さんをすとか、来た人がその場でガラガラ抽選会のスタッフをすとか、地域のもちつきを体験ではなくスタッフとして朝から晩まで参加するとか、よそものが地域の活動の担い手側になる仕組みが上手く機能すればいいと思う。こ

れは、ボランティアの仕組みに近く、親和性が高いのが「冒険者ギルド」の仕組み。

#### **(計画調整局)**

- ・短期滞在者だけでなく、中長期で滞在する人も増えて、地域との接点も増えてくると思う。

#### **(部会長)**

- ・新大阪駅東口周辺でホテルが増えて、大きなスーツケースを持っている人が増えた。周辺のホテルと連携し、地域行事やイベントに参加してもらってもいい。

#### **(久教授)**

- ・新大阪駅の東側は外国人が増えた。

#### **(部会員)**

- ・ホテルに荷物を預けて観光に出かける、APAホテルのような使い方をしている人が増えた。

#### **(部会長)**

- ・24時間お風呂に入れるとか。
- ・私は、NPO法人の代表をしていて、以前、100円のコミュニティバスを運行していたが、またそうした移動手段が必要になるのではないかと思う。
- ・淡路駅の西側の駅前広場もどうするか、そろそろ議論を始めなくては。

#### **(計画調整局)**

- ・ちょうど資料の矢印(⇒)で示している、事業中の歌島豊里線、新大阪駅側から淡路駅への部分が現在欠けている状態。市としても課題として認識している。

#### **(部会員)**

- ・バローのあたり。あのあたりを人が歩くようにならないと。ポプラ並木とか。

#### **(久教授)**

- ・前回もお話したが、例えば、このあたりの1階には積極的に店舗を誘致するとか。計画やルールで規制するのではなく、ガイドラインといったやわらかい誘導で人が歩くようなまちにしていく。皆さんのお話では、高級なブティックではなく、ローカルな居酒屋のような親しみやすいお店が並んでいるようなイメージか。アーケードを設置しなくても、金沢の堅町(たてまち)商店街※のように各店舗が庇を2メートルくらい伸ばしていけば、全体として傘無しで歩くことができるようになる。

※<https://www.tatemachi.com/>

#### **(計画調整局)**

- ・御堂筋のまちづくりは、地区計画とガイドラインの両輪で進めてきた。1階に住居を設けてはいけないという規制のかわりに、より高い建物が建てられる容積率の緩和というメリットをつけた。規制というところが、既存の土地所有者に受け入れてもらえるのか、行政としては身構えてしまうところはある。
- ・今話題になっているガイドラインやビジョンのイメージは、罰則はなく、みんなで協力しあう、ふんわりとした自主的な取り組みなのかな、と思いますが、もう少し解像度を上げていく必要があると思います。

#### **(久教授)**

- ・それはちょっと従来の行政の考え方だと思う。私は箕面市の萱野中央の区画整理などに関わってきたが、まず最初に地権者を含めてみんなで「いいまちを作ろうよ」という議論をした。そのうち、地権者自らが

「それならこういうことをみんなでやればいいよね」という雰囲気が出てくるようになり、それらを書きもの（「みんなが得するまちづくり作法集」※）に残して共有しておくことで、おのずと自主的なルールになっていった。これが本当のエリアマネジメント。

※<https://www.city.minoh.lg.jp/onohara/sintosin/sahousyuu.html>

それをだれが最初に歯車を回すのか、が重要。

#### **（部会長）**

- ・以前、久先生がお話されていた、イオンやカルフルの事例とか。この機会に、みんなで勉強してみてもどうか。
- ・阪急電車の高架化もかなりできあがってきている。そろそろみんなで中に入って見学できないか。区のほうで調整できないか。

#### **（事務局）**

- ・土木工事が終盤になり、これから電気設備の工事になるようだ。阪急電鉄でも見学の受け入れを始めているようだ。日中でないと見られないので、部会の時間帯とは別になるが、調整してみるのではしばらくお待ちいただきたい。

#### **（部会長）**

- ・前回、コンサルタントからの事例紹介にあった、阪急の洛西口～桂駅の「TauT 洛西口」も、みんなで見に行ってみようか。

#### **（部会員）**

- ・先ほどの12ヘクタールの広大な開発用地について、2点、思うことがある。1点目は、どのような機能があればよいかを考える前に、東淀川区内で欠けている施設の用地としての検討や、例えば東淀川図書館はバスも通っていないような場所にあり、アクセスも不便だ。この際、移転すれば、区民も便利になる。せつかく区内の公共施設の再配置を見直すことができる良い機会であるのに、そのような意見が出てこないのが残念だ。
- ・2点目は、現在、線路や踏切で分断されている各地域にとって、阪急の高架化によって、駅チカは鉄道事業者がテナントを誘致するだろうが、それ以外の場所がフェンスになってしまえば、相変わらず地域は分断されたままで何も変わらない。早めに、地域でも高架下の利活用について考えていくべきだと思う。

#### **（部会長）**

- ・以前、オリンピック種目にもなったスケボーなどの施設やボルダリングの施設といった意見が出ていた。

#### **（久教授）**

- ・12ヘクタールの土地を道路で分割する方法以外にも、方法は考えられる。例えば、3つのゾーンに分け、各ゾーンごとに民間事業者が道路の検討する。その際、隣のゾーンと道路がつながるよう相談し、エリアマネジメントのような仕掛けをしてもらうと、思わぬところに道路があつて面白い。また、開発用地だけを「切り取る」のではなく、これまでのまちに「埋め込む」ような開発もできるのではないかと。すると、周辺の道路とどうつなぐか考えることになり、周りのまちとうまくつながっていくデザインが期待できるのではないかと。

#### **（計画調整局）**

- ・民間事業者が道路をつくる場合、公共なのか民間なのか、調整が必要になる。

#### **(久教授)**

- ・現在は公共で道路を整備しているが、昔は、道はみんなで土地を持ち出して作られてきた。もう一度、昔のやりかたを見習う時期かもしれない。例えば、阿倍野区では、元公務員の寺西さんが長屋の再整備を進めている。家の前のアスファルトの補修のため、市に問い合わせをしてみたら、市の土地ではなく私有地だった。だから、私有地である道の半分だけを石畳にしてみた。開発用地の周りは、幹線道路が通っているので、開発用地のなかは、そのようなかたちでもおもしろいのではないか。

#### **(部会員)**

- ・香川県の丸亀商店街では、敷地境界から各店舗が2メートルほどセットバックした、かなり広い道路が整備されている。厳密には市の道路ではない部分で、ご飯を食べたりしている。道路に隣接したオープンスペースを柔軟に使えるようになると、まち全体が変わってくるだろう。

#### **(計画調整局)**

- ・公共的な利用もできるオープンスペースを民地にも作って、公共・民間の両方をあわせてより豊かなオープンスペースを確保するというご意見だと思います。

### **(2) 高架下活用事例について**

- ・事務局から、高架下の活用事例について、説明があった。

#### **(部会員)**

- ・やはり阪急電鉄との早めの意見交換が大事だと思う。先手先手で早くしていかないと、後のまつりになってしまう。せっかく地域の分断が解消されるいい機会なのに、また高架下がフェンス設置されてしまっはもったいない。高架下の利活用によって、エリアの集客性も高まると思う。

### **(3) 地域での活動報告及び意見交換**

#### **【下新庄地域】**

##### **(事務局)**

- ・資料3のとおり、11月6日に下新庄地域で3回目のワークショップが開催された。部会員が欠席なので、代わりに報告する。
- ・今回のワークショップは「子ども達のための安全安心で明るく楽しいまちづくり」がテーマ。小学生の登下校時の見守り活動、子どもの居場所づくりとしての月1回のカレーの提供、長年続いている「サマフェス」や「ミニキャンプ」といった地域活動に関する話題や次の世代の担い手の確保が課題である、といった意見が出ていた。

#### **【啓発地域】**

##### **(部会員)**

- ・秋の「啓発フェスタ」は、お天気にも恵まれ、にぎわっていた。

#### **【新庄地域】**

##### **(部会員)**

- ・12月1日に、5年ぶりに「新庄フェスティバル」が開催される。
- ・今年も敬老大会を実施したが、多い時には240～250人ほどの参加者があったが、140～150人位と、子どもだけでなく高齢者も減ってきている。
- ・大阪工業大学の吉田先生のゼミの大学院生と、市営住宅などの住民、地域住民が一緒になり、東淀川区の区役所や出張所・団地等の活用方法についてディスカッションした。思っていたよりも大学院生の発想がこじんまりしているのは今時の子らしいと感じた。私からは、以前はこの出張所の上に図書館があったので、昔に戻ってもよいのでは。昔は田んぼだったので、農業公園があってもいいのでは。といった意見を出した。あと2～3回ディスカッションをする予定。大学院生から発表の機会があるかもしれない。

## 【東淡路・柴島地域】

### （部会員）

- ・資料にはないが、10月11日に、東淡路・柴島地域の町会長、町会員、区役所の関係者などが集まって、話し合いをした。
- ・コンサルタントの司会進行のもと、アクションプラン作成のための地域の意見を集約し、今後たたき台を作成してもらい、12月か1月からは地域でワークショップを開催していきたいと考えている。
- ・地域活動の担い手が高齢化してきているので、若い人たちや色々な世代の人にまちづくりに関わってもらいたいと思っている。これまで浄水場等によって地域が分断されていたのが、つながっていくかもしれない良い機会。地域としても、夢を持って、しっかりと関わっていきたい。
- ・今年は「ふれあい喫茶」で敬老会を開催した。参加者も運営側もどちらも高齢者。コロナ禍でできなかった人と人とのつながりを取り戻し、参加しやすい仕組みを作っていきたい。
- ・12月21日に「アワナリエ」を開催するので、ぜひ足をお運びください。

## 【西淡路地域】

### （部会長）

- ・先ほどの「コミュニティバス市民の会」なども、なかなか参加してもらえないので、こちらからイベントや施設（柴島高校、淀川キリスト教病院、保育園など）を訪問している。そうすると、あちらからも来てくれることがある。

### （久教授）

- ・高架下の活用事例だが、洛西口はやはりちゃんとワークショップを開催して、地域住民の意見を聞いているのだなと思った。検討段階から一緒につくってきたから、施設ができたあともちゃんと使っている。
- ・JR中央線の事例は、JR東日本の本体ではなく、子会社のJR中央線コミュニティデザインがビジネスとして関わっている。駅の業務を含めて外部委託されている。阪急電鉄も子会社のH2Oリテイリングが社会貢献や地方創生の取り組みを進めている。このように地域に根付いた子会社とのタイアップによるまちづくりの事例が増えてきている。何を作るか以前に、仕掛けが大切だ。

## 4. その他

### （事務局）

- ・阪急電鉄の高架化の現地見学会や、「TauT 洛西口」の見学会については、調整のうえ、別途日程を連絡

する。次回の部会とは別の日程（昼間）になる。

- ・本日の部会の内容は、議事録などを作成し、区のホームページにアップする。

## **5. 閉会**

---

- ・次回の部会は、1月9日（木）午後7時から、東淀川区役所出張所3階多目的室で開催予定。

以上